米原市長　平尾　道雄　様

提　案　書

平成 18 年９月に施行された米原市自治基本条例は、米原市が自主および自立の理念に基づき、世代を超えて住み続けられる魅力あるまちづくりを推進するための基本的な事項を定めるとともに、市民、事業者等および市の役割、権利ならびに責務等を明確にすることにより地域社会の活力を高め、米原市における自治の確立および市民福祉の向上を図ることを目的としており、米原市はこの条例をまちづくりの理念として最高規範と位置付け、この条例に準じたまちづくりを進めていく必要があります。

第５期米原市自治基本条例推進委員会では、この条例に基づいた米原市の取組状況の検証をする中で、まちづくりの主役である、市民のまちづくり活動活性化について議論を重ねてまいりました。

このことから当委員会では、市民を含む様々な主体が持つまちづくりに関する情報が集まる拠点機能が市民のまちづくり活動活性化に必要であると考え、別紙のとおり、目指すべき活動の拠点【(仮称) まいＣＯＭ】機能について、内容をまとめましたので、市として公共施設等の再編、再配置を進めていく上で、これらの機能の実現を目指して取り組んでいただきますよう、よろしくお願いします。

以上

平成 29 年 10 月 31 日

米原市自治基本条例推進委員会

目指すべき“活動の拠点【(仮称)まいCOM】”機能について

1　米原市の市民活動の特徴と課題

特徴

・文化、歴史、地理等の面で多様性がある。
・ルッチまちづくり大学が地域人材の育成を担っている。
・NPO 法人や市全域で活動する団体などより、地域で活動する小規模団体、個人が多い。
・社協や公民館などが地域の集いの場の役割を担っている。

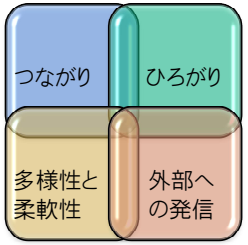
課題

・同じ興味関心のある人ばかりが集まるだけでは活動が広がっていかない。
・若い人を引き込むきっかけ・工夫が必要。
・ファシリテーションできる人材が必要。
・地域の活動情報を得られない。また、情報が集約されておらず、重複している。
・特定の人の大きな負担により成り立つ活動が多く、継続的な仕組みとなっていない。

2　提案内容

いろんな情報が集まり、新しいネットワークにつながるような“活動の拠点【(仮称)まいCOM】”が必要

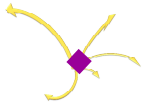
まいＣＯＭ･･･市の名称や英語で「my（自分の）」を想起させる【まい】と、英語の色々な言葉（コミュニケーション、仲間、来る）に共通する【COM】をつなげた造語



「つながり」･･･カフェスペースや事務所スペースなど、
市民活動に活用したくなる設備の提供
「ひろがり」･･･講座･研修の開催やコミュニティビジネス化支援など、
新たな展開を促すために、知識およびスキルの習得支援
「多様性と柔軟性」･･･活動相談や市民意見の把握など、まちづくりのコンシェルジュとして、年齢･規模･分野単位に留まらない連携の推進
「外部への発信」･･･マルシェ開催などにより、情報を収集･一元化し、
外部へ発信していく力
という４つのキーワードを基準とした機能を備え、開放的で居心地のよい環境の提供などにより、自由な交流と市民自ら楽しんでネットワークを生みだせるようなイノベーション拠点が必要です。

地域で情報を共有する“中間支援機能”の重要性

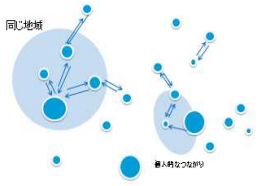
市民活動が活発化するためのもう一つの要素



市民や地域の声なき思いにこたえたり、小さなコミュニティが規模を拡大しなくともネットワークを拡大させたりできるよう、拠点への来訪を促すだけでなく、IOT の活用なども想定した、アウトリーチ型の中間支援機能が、“活動の拠点【(仮称)まいＣＯＭ】”の機能として重要です。

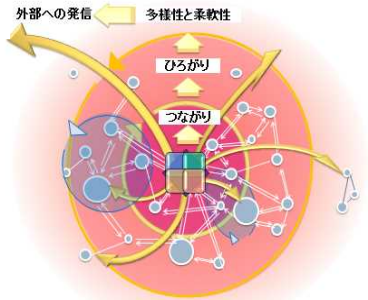
目指すべき“活動の拠点【(仮称)まいCOM】”の概念図

現状



小さなネットワークはあるが、全体としてのまとまりはない

将来像



新しい拠点を中心に交流が活発になり、拠点に集う人から様々なネットワークが生まれる。
その拠点機能を多様な主体に展開することで、地域まちづくりの活性支援となる。

“活動の拠点【(仮称)まいＣＯＭ】”の機能　詳細

いろんな情報があつまり新しいネットワークにつながる機能

つながりが生まれる設備　Co-working Space

①ネットワーク構築のための交流空間
開放的なくつろぎの空間として、いろんな分野の人が気軽に集い、つながっていくオープンスペース、カフェスペースの確保

②活動場所や事務機器の提供
事務所スペース、会議室、打合せスペースなど、活動拠点となるような設備の提供

ひろがりにつなげる支援　Sharing Knowledge

③学びや気づきの機会の提供
デザイン思考の習得など各種講座やセミナーの実施、調査・啓発等の実施、既存の講演等の効果性の向上にむけた助言

④スタートアップ支援･スキルアップ支援
新しい活動団体の立ち上げ支援や既存団体の後継者向けの研修や研究・体験等の機会提供、ピアレビューの実施

⑤運営支援・コミュニティビジネス支援
NPO 等の設立支援、民間や市の補助金(助成金)情報の提供、コミュニティビジネス化支援などのインキュベーション機能

多様性･柔軟性に富んだ連携の推進　Consultation

⑥市民活動の窓口的支援と相談援助
地域活動を始めるきっかけの提供、活動の相談や援助、悩みの傾聴、エンパワーメントの実施

⑦市民意見の把握
市民意見等の把握により、公私を充実させるやりがいの発掘・共有・まちづくりへの発展、多文化共生の推進

⑧民間同士の連携および公民連携の推進
まちづくりのコンシェルジュとして、民間同士の連携促進（異分野交流、世代間交流）、および公民連携促進（市事業などとの連携および既存事業への政策提言の実施）

外部への発信力　Data bank

⑨情報の循環に向けた仕掛けの実施
楽しさを演出するマルシェの開催などにより、拠点への来訪を促し、情報を収集・発信する。

⑩情報の収集・一元化・提供・発信
市内の市民活動状況が一様にわかり市民が共有できる仕組み、市外への情報提供

地域で情報を得るアウトリーチ型の中間支援機能　Outreach

・各種広報媒体や、IOT の活用による市民への情報発信
・各種まちづくり活動や支援情報を掲載したウェブサイトの構築
・地域で人同士・団体同士をつなぐ中間支援組織の支援

目指すべき“活動の拠点【（仮称）まいＣＯＭ】”と既存施設との違い（一例）

自治会館等

地域自治会の人たちが集い・話し合い・協力しあう場所

【違い】主に①、⑤、⑩が不足している。

つながり・・・自治会向け施設であり閉鎖的だが、関連する活動なら活動場所も事務機器も使用できる。

ひろがり・・・地域住民向けの学習機会や担い手育成機会は有るが、インキュベーション機能を有することはあまり無い。

そ の 他・・・地域住民にとって、おおよその機能は備えているが、地域外への情報提供を行う力は乏しい。

各地域の公民館など

一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術および文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とした施設。

【違い】主に①、②、⑤、⑥、⑧、⑩、アウトリーチが不足している。

つながり・・・各種講座・イベントの会場としての認識が強く、くつろぎ空間を提供するための施設となっていない。また、会議室、打合せスペースはあるものの、事務所スペースとしての機能は皆無。

ひろがり・・・学習機会や担い手育成機会を数多く有しているが、運営支援・インキュベーション機能を有することはあまり無い。

多様性・柔軟性・・・市民ニーズを捉えた各種事業を展開しているが、窓口的支援機能や各種連携の促進機能は基本的には備わっていない。

外部への発信力・・・おおよその機能は備えているものの、特に地域外への情報発信については指定管理者の力量に左右される。

アウトリーチ・・・基本的には備わっていない。

市民交流プラザ（ルッチプラザ）および生涯学習課

地域に開かれたコミュニティセンターとして機能している施設。

【違い】主に②、⑤、⑩が不足している。

つながり・・・開放的な空間であり、音楽・料理等の活動は行いやすいが、その他分野の活動については必要な設備が少ない。

そ の 他・・・おおよその機能を有しているものの、担当部署が違うため、市民意見を把握しにくく、最新情報を提供しにくい。

目指すべき“活動の拠点【（仮称）まいＣＯＭ】”の機能　用語説明

ファシリテーション（facilitation）

グループによる活動が円滑に行われるよう支援すること。特に、組織が目標を達成するために問題解決・合意形成・学習などを支援し促進すること。また、そのための方法。

イノベーション（innovation）

革新。新機軸。新しい方法、仕組み、習慣などを導入すること。

IOT（アイオーティ）

「Internet Of Things（インターネットオブシングス）」の略語。コンピューターなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットを介し、様々な場所で情報を活用できるようになること。

アウトリーチ（outreach）

手を差しのべること。

援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して、公共機関などが積極的に働きかけて支援の実現を目指すこと。公的機関、公共的文化施設などが行う、地域への出張サービス。

Co-working (コワーキング)

主に個人事業者および小規模法人が、開放的なワークスペースを共用し、各自が自分の仕事をしながらも、自由にコミュニケーションを図ることで情報や知見を共有し、協業パートナーを見つけ、互いに貢献しあう「ワーキング・コミュニティ」の概念およびその空間のこと。

80 以上の都市で展開している「インパクトハブ」の場合、開放的で居心地の良い空間があり、敷居がなく全体が見渡せるような仕組みと参加したくなる仕掛けを用意している。

sharing knowledge（シェアリング ノレッジ）

知識（knowledge）を共有（share）すること。知識ベースに蓄積された知識を他者と共有すること。自分の得意とする分野以外の知識を身につけ、相互学習することによって、新たな知識の活用法が生まれ、イノベーションの醸成につながる。

デザイン思考

多様な考え方・価値観が存在し、将来の見通しが立てにくくなっている今、これまでの既存の考え方に基づく論理的思考では問題に対処できないことが多い。そこで求められてきたのが、デザイン思考。ここでの「デザインする」という意味は、「問題解決のプロセスを通じて新しい価値や機会（イノベーション）を創りだす」こと。「なぜそれは起こっているのか」という問いから、まずは問題をよく観察し問題の本質を見極め、その解決のために具体的に思いつくできるだけのアイデアを出し合い、その中から

吟味し最終的なアイデアに絞っていく。アイデアが決まれば、そこで視覚的なデザインに移る。また、デザイン思考で需要なのは、クリエイティブな手法を活用すること。そこにイノベーションを生み出す可能性を持っている。

ピアレビュー（peer-review）

専門家仲間が研究内容を吟味すること。科学者などの間で、研究の成果などを、情実なしに公正に評価するために行われる。※「peer」は同僚・仲間の意味。

コミュニティビジネス（community business）

地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みのことで、地域における創業機会・就業機会を拡大する効果が望まれる。

また、地域住民自らが主導し実践することによって、地域社会の自立・活性化、地域コミュニティの再生などの効果が期待されると同時に、活動主体たる地域住民にとっては、社会活動へ参画することで自己実現ややりがいを得る機会となる。

consultation（コンサルテーション）

相談。協議。専門家の診断や鑑定を受けること。

エンパワーメント（empowerment）

「力をつける」という意味。

人が本来持っている力を引き出し、取り戻していくための、「人と人との関わり（関係性）」のことを指す。

インキュベーション（incubation）

設立して間がない新企業に国や地方自治体などが経営技術・金銭・人材などを提供し、育成すること。「incubation」は抱卵・培養・保育の意味。

コンシェルジュ（concierge）

特定の分野や地域情報などを紹介・案内する人。

データバンク（data bank）

広範囲のデータを収集・整理・保管し、利用者に必要な情報を即時に提供する仕組み、または、それを扱う事業。